

滝山城 高月用水

9月20日、シビルの歴史散歩で「滝山城と高月用水」を歩いてきました。ともに八王子市域にはなりませんが、拝島の多摩川対岸にあたります。

拝島からバスで、草花丘陵を越え、滝山街道にある滝山城址下へ。ここからの登り口が城の大手になります。

城に登る道の脇には空堀、そこからの斜面は



お削られ

ていて傾斜がきつくしてあります(切岸)。

まず「お城とは?」。お城というと、姫路城など、天守閣を連想しますが、天守閣は、近世城郭のみの存在。ここは、中世城郭である山城の延長にある城。戦国期まで、城は武士の居館であるとともに戦いの砦。堀や土塁・石垣に囲まれた陣地(曲輪・郭)を配置し、そこに兵力を隠します。その全体が縄張りで、城の大きさはその縄張りの広がり方で決まります。滝山城は、大変大きい城。戦国期、関東を支配した後北条氏の重要な支城で、城主は、小田原北条氏4代目氏政の弟、氏照。上杉謙信も武田信玄もこの城を攻めています、落とすところまでいっていません。(1590年の秀吉の小田



原・北条攻めの時には、すでにこの城の機能は八王子城に移っており、八王子城はその際に落城している)千畳敷、家臣屋敷跡、そして中ノ丸から多摩川を望み、木橋を渡り、虎口を入れて本丸へ。ここが一番高い曲輪で、天守閣を建てるなからここ。また、ここは最後の「詰めの城」でもあるので、籠城できるよう井戸も掘られています。

帰りは、搦め手(裏門)の道を多摩川に下ります。下りたところが高月集落で、都内最大の水田地帯が広がり、稲刈り直前の稲が実り黄金色に輝いていました。田んぼの中を流れているのが高月用水。この水がどこから来るのかたどってみよう、というのが午後のテーマでした。すぐ前を流れる多摩川からではありません。(多摩川の河床の方が低い)多摩川に合流する秋川に取水堰があり、そこから引くのですが、この時期、田んぼに水は必要なく、引水はされていませんでした。堰のある東秋川橋がこの日の終点。



8月4日撮影

